

令和2年度シラバス（商業）

学番9 新潟県立新潟商業高等学校

教科（科目）	商業（総合実践）	単位数	2単位	学年（コース）	3学年（情報処理科）
使用教科書	実教出版『新総合実践』				
副教材等	各種検定問題集				

1 学習目標

- ・商業の各分野に関する知識と技術を実践的活動を通して総合的に習得させ、ビジネスの諸活動を主体的、合理的に行う能力と態度を育てる。
- ・情報通信技術を電子商取引に応用する能力を育てる。

2 指導の重点

- ① 流通ビジネスと経営情報に関する総合的な実践や「起業」に関する学習に取り組む。流通ビジネスと経営情報に関する分野では、小売業に関する仕入取引や販売取引を中心にコンピュータを利用し、売買に関する実践的な学習をおこなう。
- ② 「起業」に関する分野では、「起業」の現状、目的、方法など新たに事業起こすためのプランを学習する。
- ③ 情報通信ネットワークを活用しての商品売買や金融取引のしくみ、電子商取引を始めるための手順及び法規について理解させる。

3 学習計画

学 期	月	学 習 内 容	時間
1 学期	4	第3章 文書の作成 ①文書の役割と重要性 ②文書作成の基本 ③通信文書の作成 ④文書の管理	25
	5	第4章 基本取引 【1学期 中間考査】 基本取引の流れ 開始記入、見積もり依頼 値段の見積もり	
	6	商品の発注、商品の受注 会計ソフト（弥生会計）演習	
	7	第2章 対応のしかた ①対応とは ②一般的な心得 ③話し方と言葉使い ④来客との対応 ⑤電話による応対 【1学期 期末末考査】 進路指導ビデオ	
2 学期	9	第4章 基本取引 商品の発送、商品の受け取り 代金の支払い、代金の受け取り 電子商取引（校内取引）	30
	10	電子商取引における商品売買のしくみや技術、 注意点について理解させ習得させる。	
	11	電子商取引（校外取引①） 実習課題：電子商取引書式 電子商取引（校外取引②） 進路指導ビデオ	
	12	Web メールを利用したビジネス文書の実習・習得。 【2学期 中間考査】 会計処理、会計伝票の集計と転記 決算事務 会計ソフト（弥生会計）演習 Web ページ作成（スタイルシート） 起業（ビジネスプラン）及びプレゼンテーション実習 ①設立事項の確認 ②類似商号の調査 ③発起人会の開催 ④定款の認証 ⑤株主の募集・申込・割当・払込 スライドの作成	

		【2学期 期末考査】	⑥創立総会 ⑦取締役会及び監査役の調査 ⑧取締役会	
3学期	1	【学年末考査】	⑨設立登記 ⑩諸官庁への届出 スライドの作成 ⑪プレゼンテーション (ビジネスプラン)	20

計75時間(47分授業)

4 課題・提出物等

- ① 帳票類 (帳簿・伝票)
- ② 取引時の発送文書類
- ③ ビデオ鑑賞 (進路指導用) 時に作成するレポート
- ④ 「起業」関連書類 など

5 評価規準と評価方法

評価は、次の4つの観点から行います。

関心・意欲・態度	・売買取引について関心を持ち、その基本的な知識と取引実践の理解を目指して意欲的に取り組んでいる。 ・商業高校で学ぶことの意義や目的をしっかりと把握し、意欲的な態度で取り組んでいる。 ・起業に関して、自ら進んでまとめたり確認したりする意欲と態度を持っている。 ・電子商取引に自ら考え、売れる商品の画像作成や、取引について積極的に考えようとしている。
思考・判断・表現	・取引内容を理解しようと自ら思考を深めることができる。 ・帳票類の作成に関する知識を修得し、正確に作成することができる。 ・基礎的、基本的な知識を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身につけている。 ・自分の進路についての情報を適切に収集し、自ら思考を深めている。 ・電子商取引の情報発信で、適切な表現を用いることができる。
技能	・売買取引に関する基礎的、基本的な知識を身につけている。 ・卸売商・小売商・製造業者の関係を理解している。 ・取引時に必要な発行文書の作成や帳票類を作成する能力を身に付けている。 ・起業の際に必要な書類を、様々な資料を活用して作成することができる。 ・電子商取引の作品を作成できる。
知識・理解	・商業取引を学ぶ目的や学び方を理解するとともに、日常取引に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、社会におけるビジネスの意義や役割を理解している。 ・起業 (ビジネスプラン) の現状と起業に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、理解している。 ・ビジネスや電子商取引における広報の意義や役割および様々な広報の手段の特徴を理解する。

このため、評価は具体的には次のものを対象とします。

- ・定期考査
- ・授業で作成する帳票類 (帳簿・伝票) ・発送文書類
- ・ビデオ鑑賞時に作成するレポート
- ・プレゼンテーションの評価
- ・学習への参加状況 (授業態度・出欠状況)

また、1年間の評定は、1学期から3学期の年間を通じて、上記の内容及び出席状況により総合的に判断して決定します。

6 担当者からの一言

私たちのまわりにはいろいろなビジネスが存在します。自分で新しい会社をつくり開業する「起業」を成功させるためには、他人と違う魅力ある「ビジネスプラン」を考え、それを実現するための具体的な企画や知識・スキルを身につける必要があります。授業ではビジネスプランをたてる準備から基本的な起業の仕組みを学習したいと思います。

また、電子商取引において、掲載画像の大切さ、ビジネス文書の作成、必要情報通信ネットワークやソフトウェアを活用する総合的な情報発信能力、コミュニケーション能力を身に付けることができます。

令和2年度シラバス（理科）

学番9 新潟県立新潟商業高等学校

教科（科目）	理科（物理基礎）	単位数	3単位	学年（コース）	3学年（情報処理科）
使用教科書	東京書籍 改訂 新編物理基礎				
副教材等	浜島書店 ゼミナール 物理基礎				

1 学習目標

1. 物理が日常生活や社会とどのように関連しているかを知り、物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高める。
2. 目的意識をもって観察・実験などを行い、物理的に探究する能力と態度を身につける。
3. 物理学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を身につける。
4. 科学技術の在り方やエネルギー問題について市民が意思決定するために必要な、科学的な知識、能力、態度を身につける。

2 指導の重点

1. 物理学の基礎は力学にあるので力学概念についての理解を図り、法則に基づいて将来の運動が予測できるようにする。
2. 物理的な事物・現象についての観察、実験を通し自然現象に対する関心や探究心を高める。
3. 自然現象を物理学的に探究する過程を通し科学の方法の習得、科学的に考える態度の育成を図る。
4. 物理的な知識を獲得し、理解を深めることにより、自然を物理的に探究する能力や科学的自然観を身に付ける。

3 学習計画

学 期	月	学 習 内 容
1学期 (38時間)	4	1編 物体の運動とエネルギー 1章 直線運動の世界(13時間) ・速さ ・速度 ・等速直線運動 ・合成速度と相対速度 ・加速度 ・等加速度直線運動その1 ・等加速度直線運動その2
	5	2章 力と運動の法則(18時間) ・力とは ・力のつり合い ・力の合成と分解 ・運動の第1法則 ・力と質量と加速度の関係 ・運動の第2法則 ・運動の第3法則 ・物体にはたらく重力 ・鉛直投射 ・放物運動
	6	3章 日常に潜む力(7時間) ・摩擦力 ・液体や気体から受ける力 ・抵抗のある運動
2学期 (45時間)	7	4章 仕事とエネルギー(18時間)
	9	・仕事 ・仕事の原理と仕事率 ・重力による位置エネルギー ・弾性力による位置エネルギー ・運動エネルギー ・力学的エネルギーの保存 ・いろいろな運動でみる力学的エネルギー
	10	2編 さまざまな物理現象とエネルギー 1章 熱(11時間) ・熱と温度 ・物質の三態 ・熱の移動と保存 ・熱と仕事 ・熱効率と不可逆変化
	11	2章 波(16時間) ・いろいろな波 ・波の伝わり方 ・波を表す ・波の重ね合わせ ・波の反射 ・定常波 ・音の伝わり方 ・振動する弦 ・振動する気柱

3学期 (29時間)	12	3章 電気(17時間)
	1	・電気のはたらき ・電流と電気抵抗 ・回路での電流の流れ方 ・電力と電力量 ・電流がつくる磁界 ・モーターのしくみ ・発電機のしくみ ・直流と交流 ・電磁波
	2	4章 エネルギー(12時間) ・エネルギーの変換と保存 ・エネルギーの利用 ・放射線の利用 ・原子力の利用
計 112時間(47分授業)		

4 課題・提出物等

- ・ 実験・観察のレポートは指示した期日内に提出すること。
- ・ 各単元において、内容によっては授業内小テストを実施することもある。
- ・ 副教材の練習問題等は、授業の進度に合わせ各自が家庭学習として行うこと。

5 評価基準と評価方法

評価は、次の4つの観点から行います。

関心・意欲・態度	物理的な事物・現象に関心をもち、興味のある対象について意欲的に探究するとともに科学的に思考する態度を身に付けている。
思考・判断	物理的な事柄・現象の中から問題を見出し、観察や実験を通しその問題について実証的かつ論理的に考え、定式化する。さらに定式化された問題を事実に基づき分析的かつ総合的に考え、その結果を化学的に判断し問題解決ができる。
観察・実験の技能・表現	物理的な事物・現象についての事柄を観察したり、実験したりする技能を習得するとともに、それらを科学的に探究する方法を身に付ける。また観察・実験の過程と底から導かれた結果およびその結果に至る考え方を的確に表現できる。
知識・理解	物理的な事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解しており、観察や実験にとって必要な様々な知識を身に付けている。

このため、評価は具体的には次のものを使用して行います。

- ・ 年5回の定期考査
- ・ 授業で活用するプリント
- ・ 実験・観察のレポート
- ・ 授業中における学習への意欲、提出物への取り組み状況

また、1年間の評定は、1学期から3学期の年間を通じて、上記の内容及び出席状況により総合的に判断して決定します。

6 担当者からの一言

「物理学」と言う言葉を辞書で引くと「物質の構造・性質を明らかにし、それによる自然現象の普遍的な法則を研究する自然科学の一部門」とある。辞書にあるように、自然現象を一般的な法則として捉える学習が「物理」であろう。授業ではいわゆる公式を使った計算問題なども扱う。しかし、公式を丸暗記すればよいというものではない。どのように公式が導き出されたのか、その過程を追うことも物理では重要な点である。

物理が実は身近に存在し（たとえばテレビやスマートフォンなど）、私たちの生活に大変役に立っているということも学んでほしいと思います。

令和2年度シラバス（商業）

学番9 新潟県立新潟商業高等学校

教科（科目）	商業（マーケティング）	単位数	3単位	学年（コース）	3学年（情報処理科）
使用教科書	『マーケティング新訂版』（実教出版）				
副教材等	全商商業経済検定試験模擬問題、教科書準拠マーケティング問題集等				

1 学習目標

マーケティングに関する基礎的な知識と技術を修得させ、その意義や役割を理解させるだけでなく、マーケティング活動を計画的・合理的に行う能力と態度を育てる。

2 指導の重点

マーケティングの意義や役割及び市場環境の変化に対応したマーケティングの在り方について理解させるとともに、効果的なマーケティングを行うための知識と技術を習得させること。経済のサービス化など新しい動向への対応、生徒の就職への配慮、さらには、資格取得への対策にあたるのみでなく、小売業・サービス業の立場からの経営管理能力の育成と社会的な必要性を考え、消費者教育と環境問題の観点にも十分配慮して学習する。学習到達度の確認のため、全商商業経済検定マーケティングを受験する。

3 学習計画

学 期	月	学 習 内 容	時間
1学期	4	第1章 現代市場とマーケティング 1. 現代市場の特徴 2. マーケティングの概要	38
	5	第2章 市場調査 1. 市場調査の意味 2. 市場調査の手順	
	6	3. 実態調査の方法 4. 市場調査の実習	
	7	第3章 消費者行動 1. 消費者行動と購買 2. 購買意思決定過程 3. 製品のライフサイクルと普及	
2学期	9	第4章 販売計画 1. 販売計画と販売予測 2. 販売計画の立案・実施・統制	44
	10	第5章 製品計画 1. 製品計画の概要 2. 製品ミックスと製品政策	
	11	*製品開発（商品開発） 第6章 仕入計画と商品管理 1. 仕入計画	
	12	2. 商品管理 第7章 販売価格 1. 販売価格の決定 2. 価格戦略	

3 学期	1	第 8 章 販売経路 1. 販売経路の設定 2. 販売経路の強化	3 0
	2	第 9 章 販売促進 1. 販売促進の重要性	
	3	2. 広告 * 広告の実習 3. 販売員活動 * 販売の実習 4. ブランド 5. 信用販売 6. その他の販売促進 * 店舗の立地と設計	

計 112 時間 (47 分授業)

4 課題・提出物等

- ① 授業で使用したノート・プリントの提出
- ② 授業中に使用する問題集の提出
- ③ プリント・レポート・感想文等の提出
- ④ 販売促進の中で、広告を作成

5 評価規準と評価方法

評価は、次の 4 つの観点から行います。

関心・意欲・態度	・マーケティングの諸活動について感心を持ち、その知識の習得を目的として意欲的に取り組んでいる。 ・ビジネスマンとして望ましい態度を身に付けようと取り組んでいる。
思考・判断・表現	・マーケティングに関する諸問題や変遷を経済生活との関連からの確に把握し、自ら思考する能力を身に付けている。 ・マーケティングの諸問題に対し、どのような問題解決方法を用いればよいかを、的確に選択できるか。また、その目標を表現できる。
技能	・マーケティングの諸問題に対し、基礎的・基本的な知識と技術使い、問題を解決する方法を身に付けている。
知識・理解	・マーケティングを学ぶ目的を理解している。 ・マーケティングに関する基礎的・基本的な知識を身につけている。 ・マーケティングを学ぶ方法を理解している。

このため、評価は具体的には次のものを対象とします。

- ・年 5 回の定期考査
 - ・授業で活用する副教材
 - ・課題
 - ・学習への参加状況
- また、1 年間の評定は、1 学期から 3 学期の年間を通じて、上記の内容及び出席状況により総合的に判断して決定します。

6 担当者からの一言

マーケティング (marketing) とは、企業や非営利組織が行うあらゆる活動のうち、「顧客が真に求める商品やサービスを作り、その情報を届け、顧客がその商品を効果的に得られるようにする活動」の全てを表す概念である。

マーケティングの定義は様々に変遷してきているが、商品またはサービスを購入するポテンシャルのある顧客候補に対して情報提供 (情報収集) などマーケティング・コミュニケーション活動で相互学習状態を形成して購買に至らしめ、さらなるコミュニケーションのステップアップにて固定顧客化して顧客価値を高め、再購入や顧客連鎖を促進する、などの企業活動の拡大再生産 (あるいは維持) を図るための一連の行為であり、心理学、数学、社会学、経済学、そして文学・芸術等様々な知識の上から成り立つ高度なスキルである。

皆さんもこのようなスキルを身に付けられるように頑張りましょう。

令和2年度シラバス（商業）

学番9 新潟県立新潟商業高等学校

教科（科目）	商業（ビジネス経済応用）	単位数	2単位	学年（コース）	3学年（情報処理科）
使用教科書	実教出版 『ビジネス経済応用』				
副教材等	実教出版 『ビジネス経済応用』教科書準拠問題集				

1 学習目標

ビジネスに必要な経済に関する知識を習得させ、経済社会の動向について理解させるとともに、サービス経済社会に適切に対応する能力と態度を育てる。

2 指導の重点

わが国における産業構造の変化や経済の国際化などビジネスに必要な経済に関する知識を習得させ、経済やビジネスの動向に着目させるとともに、経済に関する知識を応用して、ビジネスの機会をとらえた適切な経済活動や地域の資源を活用した地域産業の振興などを主体的、創造的に行うなど、サービス経済社会に適切に対応する能力と態度を育てる。

3 学習計画

学 期	月	学 習 内 容	時間	検 定
1学期	4	第1章 サービス経済化とサービス産業 第1節 産業構造の変化と労働 第2節 サービス産業の現状	26	
	5			
	6	第2章 経済の国際化 【1学期 中間考査】 第1節 企業の国際化・グローバル化 第2節 国際化の進展と国際収支 第3節 貿易の利益と課題 第4節 国際資本移動 第5節 外国為替		
	7	【1学期 期末末考査】		
2学期	9	第3章 金融市場と資本市場 第1節 金融取引の発達 第2節 貯蓄と投資の動向 第3節 金融市場と資本市場の課題	30	
	10	【2学期 中間考査】		
	11			
	12	第4章 企業経営 第1節 企業経営の特色 第2節 企業経営と外部環境 第3節 企業の社会的責任 第4節 企業の海外進出と経営 【2学期 期末考査】		
3学期	1	第5章 ビジネスの創造と地域産業 第1節 企業の手続き	19	全商商業経済 検定
	2	第2節 新たなビジネスの展開		
	3	第3節 地域ビジネス事情 【学年末考査】		

計75時間（47分授業）

4 課題・提出物等

- ① 授業で使用したノート、プリントの提出
- ② 授業中に使用する問題集の提出
- ③ 作文・感想文・レポート等の提出
- ④ 長期休暇中の課題の提出

5 評価規準と評価方法

評価は、次の4つの観点から行います。

関心・意欲・態度	・経済や企業経営について関心を持ち、経済活動の動向について理解することを目指して、主体的に取り組もうとしている。 ・サービス経済社会に適切に対応する実践的な態度を身に付けている。
思考・判断・表現	・経済社会の動向について理解することを目指して、思考を深めている。 ・経済や企業経営に関する基礎的・基本的な知識と技術をもとに、ビジネスの諸活動に携わる者として適切に判断し、外部に表現する創造的な能力を身に付けている。
技能	・経済社会の動向への考察やサービス経済社会に適切に対応する基礎的・基本的な技術を身に付け、活用することができる。 ・経済社会の動向への考察やサービス経済社会への適切な対応について合理的に計画し、その技術を適切に活用している。
知識・理解	・経済や企業経営に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。 ・サービス経済社会に適切に対応することの重要性について理解している。

このため、評価は具体的には次のものを対象とします。

- ・年5回の定期考査
- ・授業で活用するプリントおよび問題集
- ・長期休暇に出題される課題
- ・学習への参加状況

また、1年間の評定は1学期から3学期の年間を通じて、上記の内容及び出席状況により総合的に判断して決定します。

6 担当者からの一言

私たちが眠っている間にも、財貨や人を乗せた船舶や航空機が様々な国の間を行き来しています。金融市場は活動し続け、そして情報は瞬時に世界を駆け巡ります。まさにボーダレス・エコノミーの時代に私たちは生活しているのです。世界の各国・地域が相互依存度をますます深めています。このように国際化・グローバル化が進展する中で、基礎知識を身に付け国際社会への視野を広めることが大切になります。

また、日本経済は高度経済成長をへて、人々の生活を豊かで便利にし、日本的経営システムをつくりあげ、自動車など多くの産業で「よい商品を安く」を提供することで世界を席卷しました。しかし1990年代以降、経済低迷に苦しんでいます。新しい時代に向け、日本の経営システムの再構築と経済活力を高める努力がなされています。そして新たなビジネスの創造や地域産業の振興など、近い将来ビジネスにたずさわるみなさんにとって、サービス経済社会に適切に対応できる能力を身に付けてほしいものです。

全国商業高等学校長協会主催の商業経済検定「ビジネス経済B」検定試験の受験が可能となります。

令和２年度シラバス（商業）

学番 9 新潟県立新潟商業高等学校

教科（科目）	商業（経済活動と法）	単位数	2単位	学年（コース）	3学年（情報処理科）
使用教科書	実教出版 『経済活動と法』				
副教材等	実教出版 『経済活動と法』問題集新訂版				

1 学習目標

- ・ビジネスに必要な法規に関する基礎的・基本的知識を習得させる。
- ・経済社会における法の意義や役割について理解させるとともに、経済事象を法律的に考え、判断する能力と態度を育てる。

2 指導の重点

- ・進学・就職等希望進路が多岐にわたっていることから、
 - ①円満で秩序ある社会生活を送るうえで必要な「社会規範」が「法」であることを理解します。
 - ②具体的判例等を参照し、自ら送っている生活を法に照らして、事例を判断できる能力を育成します。
 - ③更にそれら知識を使い、経済活動を法律的に考え、判断する能力を育成します。

3 学習計画

学 期	月	学習内容	時 間
1学期	4	経済社会と法 法の意義と役割（１）～（３） 経済環境の変化と法 権利・義務と財産権	1 2
	5	権利・義務とその主体（１）～（４） 物と財産権（１）～（３） 知的財産権 物とサービス	
	6	【1学期中間考査】 財産権と契約	
	7	契約（１）～（５） 売買契約（１）～（４） 貸借契約（１）～（４）	1 3
		【1学期期末考査】 財産権の保護（１）～（５） 不法行為（１）～（３） 担保制度（１）～（６）	
	9	契約によらない財産権の変動（１）～（３）	1 7
	10	【2学期中間考査】 企業活動に関する法	
2学期	11	企業活動と法（１）～（３） 株式会社と法（１）～（７）	1 4
	12	【2学期期末考査】 手形・小切手と法（１）～（４）	

3 学期	1	社会生活に関する法 消費者と法（１）～（３） 労働と法（１）～（４） 家族と法（１）～（６） 【学年末考查】 紛争の予防と解決	1 3
	2		
	3	紛争の予防（１）～（２） 紛争の解決（１）～（２）	6

計 7 5 時間(4 7 分授業)

4 課題・提出物等

- ・配付される、穴埋め形式でまとめることのできるプリント
- ・適宜実施される「レポート」の提出
- ・検定問題集（購入してもらいます）

5 評価規準と評価方法

評価は、次の４つの観点から行います。

関心・意欲・態度	・ビジネスの諸活動に関する諸問題について関心をもち、その改善・向上を目指して意欲的に取り組むとともに、ビジネスに対する望ましい心構えや実践的な態度を身に付けている。
思考・判断・表現	・ビジネスの諸活動に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫するとともに、その成果を的確に表現する能力を身に付けている。
技能	・商業の各分野に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、ビジネスの諸活動を合理的に計画し、適切に処理する能力を身に付けている。
知識・理解	・商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、ビジネスの意義や役割を理解している。

このため、評価は具体的には次のものを対象とします。

- ・年 3 回の定期考查
- ・授業で活用するプリント
- ・時事問題を題材にしたレポート
- ・学習への参加状況

また、1 年間の評価は、1 学期から 3 学期の年間を通じて、上記の内容及び出席状況により総合的に判断して決定します。

6 担当者からの一言

ブラック企業・離婚率の増加・詐欺や強迫による消費者被害の拡大、昨今は社会生活を営む上で心配なことや身近な問題が山積しています。そういった問題に直面した際、あらかじめ必要な法的知識を持っていることは、我々の身を守ることになります。

経済活動と法は、学問として難解な問題に挑戦するのではなく、法知識の習得を通して、社会の仕組みを考える教科だと思っています。社会人になる準備として、法で定める権利や義務について学習することは大変有意義です。

令和2年度シラバス（商業）

学番9 新潟県立新潟商業高等学校

教科（科目）	商業（電子商取引）	単位数	3単位	学年（コース）	3学年（情報処理科）
使用教科書	実教出版『電子商取引』				
副教材等					

1 学習目標

この科目の目標は以下の通りです。

- (1) 高度情報化社会における企業の役割を理解できる。
- (2) 情報通信ネットワークを活用した商取引の意義を理解させるとともに、それを行うための知識と技術を習得する。
- (3) 利用者の立場に立ったシステムを構築するため、コンピュータを効果的に活用する能力と態度を育てる。

2 指導の重点

アプリケーションソフトを利用した実習に加え、インターネットを活用した商取引という視点から、メディアの特性を取り上げ、コンテンツやウェブの制作・公開を通じて、新たなビジネスモデルの考え方を身につけさせる。

3 学習計画

学 期	月	学 習 内 容	時間
1 学期	4	第1章 情報通信技術の進歩とビジネス ビジネスの変化と情報通信ネットワークの活用と課題について学習する。	37
	5	- 電子商取引の必要性 - 電子商取引における広告・広報活動の特徴と用途 - 情報通信ネットワークの実態 - 個人情報、知的財産権の保護の必要性	
	6	第2章 コンテンツの制作 ファイルの形式、図形、静止画、動画、音声、情報の統合について学習し、利用法を習得する。	
	7	- 図形・静止画・動画・音声などの特徴 - 図形情報の効果的な利用法 - 静止画・動画・音声データの取得方法やこれを活用するための技法 - 情報を統合することの意義や役割 - 情報を統合するための技法	
	9	第3章 ウェブデザインと広告・広報 ウェブページ制作までの手順、ウェブデザイン設計、ウェブページ制作の基礎、ウェブページ制作の応用について学習し、基本的な技法を習得する。	
2 学期	10	- ウェブページを制作するための手順 - ウェブデザインの意義や役割 - デザインの基礎的な知識 - HTMLの基本的なタグやスタイルシート（CSS）やJavaScript - ウェブページ作成ソフトウェアやワープロソフトウェア - CMSの意義や役割	45
	11	第4章 ウェブページの公開 ネットワーク機器の種類・機能と公開の方法について学習する。	

	12	・通信ネットワークの仕組みや役割 ・ネットワーク機器の基本的な知識 ・ウェブページを公開するための手順 ・インターネットの基礎的な知識	
3 学期	1 2	第5章 電子商取引とビジネス 電子商取引のしくみ、企業間取引と企業対消費者間取引、電子決済のしくみと方法、電子商取引システムの作成について学習する。 ・電子商取引の意義や役割 ・電子商取引サイト開業に必要な手順 ・店舗運営を行うための基礎的な知識 ・取引対象が異なる電子商取引の違い ・電子決済の意義や方法 ・システム構築方法 ・ウェブページ作成ソフトウェアの使用	30

計 112 時間(47 分授業)

4 課題・提出物等

各単元で課題を作成し、提出する。

5 評価規準と評価方法

評価は、次の4つの観点から行います。

関心・意欲・態度	・ビジネスにおける電子商取引の必要性に気づき、商取引に情報通信技術を活用しようとする意欲を持って、電子商取引システムの構築に必要な知識や技能を積極的に学ぼうとしている。
思考・判断・表現	・電子商取引システムを構築するために、目的に応じた機器やソフトウェアを選択して利用したり、顧客の立場に立ったデザインに加工する工夫を行うとともに、分かりやすい情報発信ができる。 ・知的財産権を意識したウェブデザイン設計を行うことができる。
技能	・図形や静止画、動画、音声などのマルチメディアを利用した情報発信に必要な機器やソフトウェアの利用および、ウェブページの作成技法を身につけるとともに、これらを活用して電子商取引システムを作成できる。
知識・理解	・ビジネスにおける電子商取引の意義や役割を理解するとともに、ウェブページを用いて情報を効果的に伝えるための基礎知識や分析、企画・立案、制作、公開の手法を身につけている。

このため、評価は具体的には次のものを対象とします。

- ・学習への参加状況
- ・授業時に科される課題の提出物

また、1年間の評定は、1学期から3学期の年間を通じて、上記の内容及び出席状況により総合的に判断して決定します。

6 担当者からの一言

実技中心の科目であるので、少しでも早く正確にデータ入力や編集作業が行えるように、向上心を持って授業に臨むこと。毎時間の授業に集中して取り組むことが大切です。